

2017年3月



### 自己想起とは何か、なぜそれが重要なのか？

意識について話すとき、言葉を超えた存在の状態について言葉で説明しているという点を理解することが大切です。ここで使われている言葉の意味について深い理解に近づくには、何年にもわたる特殊な研究と試みが必要になるかもしれません。ここでシェアしている話は、それぞれの個人が自分で結論に達する上で必要となる長期的なワークについて示すものと解釈することができます。

古典的な心理学をふくめて、有史以前から現代にいたるあらゆるスクールの伝統は、人間のマインドの混沌について認識し、この病への対応策を捜し求めてきました。その解決は量的な変化ではなく、質的な変化です。つまり、幸福や喜び、善をふやすことが問題なのではなく、異なったレベルの創造物になることが問題なのです。私たちは自分が人間だと空想する動物的存在として生きています。私たちにはまた、人間存在としての、そして神的存在（高次の自己、または第三の目）としての可能性もあります。神的存在としての可能性、それは人間にとって究極の旅です。意識的に目覚めたティーチャーが指導する特殊なワークと十分な努力によって、初めはひらめきでしかない高次の意識状態はついに恒久的なものとなりえます。この神的な状態においてこそ、私たちは真の喜びと善を経験します。

あらゆる問題への鍵は意識の問題である。

古代エジプト文書

意識とは何かを理解しはじめるには、まず意識でないものが何であるのかを理解しなければなりません。意識は動作や感覚、感情、思考ではありません。宇宙に存在する意識は、岩石もつ意識から〈絶対〉がもつ意識にいたるまで、巨大な範囲にわたっています。人間に可能な意識もまた、巨大な範囲にわたっています。ある段階で人間の気づきは、人間としての意識と動物としての意識が共存し、**自己想起**としても知られる神的存在の気づきに接近するのかもしれませんが。

自己想起、または第三の目は、マインドと身体を見守りながらもそれらから分離している状態です。自己想起は特殊な状況や条件下でのみ起こりうる状態ではなく、重要な瞬間と平凡な瞬間をふくめた人生のあらゆる瞬間で起こりうる状態であり、自分のあらゆる活動について完全に目覚めている意識の質です。

自己想起のワークを行うには、ハートに対するワークも必要となります。修練を行っていないハートは、生涯にわたって執拗に人間につきまとう、野放しで破壊的な獣欲にどっぷりとつかっています。人間は、その存在を始めて以来この状態を観察し、それに対処する手段を生みだしてきました。しかし、修練を行ったハートは第三の目 - 神的なる無言のプレゼンスを育み、それを守るための強さと意欲をそなえています。ハートの修練は自らの浄化と自己の想起ではじまります。

心術とは、心の錨（いかり）を平和と正しさの中にしっかりと保つことからなる。ふるえるような情欲に流されたり、決して満たされることなき感覚の欲求のために自己を手放すことがあってはならない。

#### 黄帝

これについて、どうしたらシンプルな仕方で語るができるのでしょうか？

まるでチェスのゲームのように、規則はシンプルですがそれをマスターするのは困難です。意識的な目覚めはマスターのゲームです。マスターのゲームには、学ぶのは簡単でもマスターするのは難しい、あるシンプルな手法があります。その手法はシンプルであり、どこにでも持ち込むことが可能で、あらゆる条件や状況で使うことができます。外的あるいは内的な条件から完全に自由であるこの手法は、それを使おうと願う自分の志を除いて何のものにも制約されません。このためハートの修練が必要になります。第三の目、ハート、手法という、この三つ組（トライアド）は、自己想起という黄金の瞬間をアクセントとして散りばめた、〈プレゼンス〉という布地を織りなします。十分な技能があれば、この布地はすべて純金となります。つまり自己想起と第三の目は恒久的なものになるのです。

神（第三の目）はいつでも善を超えており、正義、賢明、不変、真理であり、目に見えず、触れることができず、理解できず、完璧であり、存在を超越しており、慈悲に満ち、同情と共感にあふれ、すべてを支配し、すべてを見ている。

#### 「フィロカリア」、ダマスカスのペテロ

これはスクール、秘教的医学、錬金術の伝統がもつ内的な意味に光をあてています。それはすなわち、肉体を使ってアストラル体を生み出すということです。

しかし、自分が乗り出したこの途方もない旅に必要な手法について学び、必要な支援を受けとるにはどうしたらよいのでしょうか？おとぎ話に現れる英雄はいつでも外なる助けを受けとります。人は意識的な目覚めのスクールを見つけなければなりません。

自分の努力だけでは、人はベールを取り去った状態に達することができない。

**アブー・アフマド**

スクールは、たんなる動物あるいは人間として存在することに不満を感じるようになった普通の人々のためにあります。こうした不満が生じたのは、彼らが神的な永遠性という高次のレベルを何らかの形で一瞥し、自らがもつ高次の可能性について洞察を得たからです。もし普通の人間がこの旅に必要なコミットメントと支払いを行うなら、扉は開かれるのです。

ケビン H. ブラウン